

教師の魅力に関する研究

一職業的社会化における「役割」を視点として一

田中明香里 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究の目的は、教師の職業的社会化において、期待されるある一定の行動様式である「役割」がどのように機能し、教師のパーソナリティである「魅力」とどのような関係性があるのかについて考察することである。

2. 研究方法

- 1) 対象者 現職の小学校教師3名
- 2) 調査方法 グループでの半構造化インタビュー
- 3) 分析方法 得られた語りをトランスクリプトに起こし、職業的社会化の「役割」という視点から共通性および独自性を見出しながら解釈し、考察した。

3. 結果と考察

- 1) 初任期の職業同一化については、3名に似たような語りが得られた。3名とも一般理論通り、具体的な方法はそれぞれであるものの、初任期はモデルや準拠枠を周囲に設定し職業同一化が進んだ。さらに、その設定によって自己社会化が方向づけられるということも一般理論通り解釈された。
- 2) 教師に求められる役割の認識や実際に遂行される教師行動については、3名に異なる口述が得られら。役割の認識については、「教師としての自分」と「素の自分」の重なり具合が影響を与えることが推測された。教師行動については、「教師としての自分」という役割を遂行する中で、「素の自分」の表出のさせ方がアイデンティティであり、他者から魅力として捉えられるのではないかと推測された。
- 3) 「素の自分」はそれぞれであるものの、共通して「子どものため」という意識が根底に

あるという口述が得られたことから、ベクトルが子どもに向いていると表出した際により魅力的にうつることが推測された。

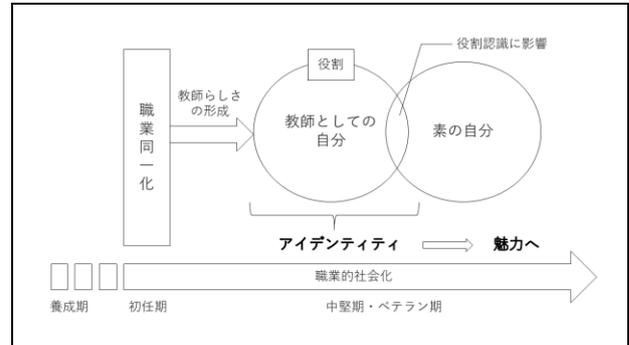


図1 職業的社会化における「役割」と魅力の構造

4. 結論

本研究では、初任期に形成された「教師らしさ」を基に、「教師としての自分」という役割を遂行する中で、「素の自分」の表出のさせ方がアイデンティティであり、他者から魅力として捉えられるのではないかと推測された。また、「素の自分」のベクトルが子どもに向いていると、表出した際により魅力的にうつることが推測された。

5. 主な参考文献

- 1) 今津孝次郎 (1985) 教師の職業的社会化, 教育社会学を学ぶ人のために, 世界思想社, pp.166-182
- 2) 鈴木聡 (2017) 教師が育つ体育の授業研究, 体育科教育, pp.74-77